

ニホンナシ新品種「蒼月」の特性	
担 当	園芸作物研究室 果樹栽培グループ ○安永真・藤村澄恵・岡崎仁*・村上哲一*
研究課題名 研究年度	落葉果樹品種系統適応性試験 昭和48年～

## 背 景

本県のナシ産地では、「二十世紀」が最も多く、次いで「豊水」「幸水」「新高」などが栽培されているが、多様化する消費者の嗜好や生産者の労働力不足から、高品質な極早生品種が望まれている。

「蒼月」は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門において育成され、系統適応性検定試験の結果、優良であることから、品種登録出願公表されることとなった。

## 目 的

食味等の果実品質が優れる極早生品種の本県での適応性を明らかにし、産地における新品種導入の資とする。

## 成 果

- 1 樹勢は中程度からやや強く、枝の発生密度は中程度からやや少ない、短果枝、えき花芽の着生は中程度からやや少ない（表1、表2）。
- 2 収穫は「幸水」より半月程度早く7月末から8月初旬に収穫可能となる極早生の青ナシである（表1、表2）。
- 3 極早生であるが果実重は「幸水」並みかやや大きくなり、糖度は幸水並みかやや低いが極早生の青ナシとしては高く良食味で、みつ症や芯腐れもほとんど発生しない（表3、表4）。
- 4 黒斑病に対しては抵抗性で、黒星病に対しては罹病性であり、赤ナシと同様な防除で栽培可能である（農研機構 園芸学会令和4年度春季大会要旨より）。
- 5 S遺伝子型はS<sub>1</sub>S<sub>3</sub>で「凛夏」とは交雑不和合であるが、「幸水」「豊水」等の主要品種とは交雑和合である（農研機構 園芸学会令和4年度春季大会要旨より）。
- 6 花芽の着生がやや悪いことから、まち枝の確保や夏季の枝の誘引等により花芽の確保に努める必要がある（農研機構 園芸学会令和4年度春季大会要旨より）。

\*現下関農林事務所

表1 「蒼月」の樹体特性(農研機構 果樹茶業研究部門 2018-2021年)

品種	樹勢	枝の 発生密度	短果枝の 着生	えき花芽 の着生	開花 中央日	収穫 中央日
蒼月	やや強	やや少	少	少	4月11日	7月29日
幸水	中	中	少	やや多	4月11日	8月17日

\*園芸学会令和4年度春季大会要旨より

表2 「蒼月」の樹体特性(山口県農林総合技術センター 2021-2022年)

品種	樹勢	枝の 発生密度	短果枝の 着生	えき花芽 の着生	開花期		収穫期	
					始	終	始	終
蒼月	中	中	中	中	4月1日	4月9日	7月31日	8月3日
幸水	中	中	少	中	4月2日	4月9日	8月11日	8月26日
豊水	中	中	中	多	4月1日	4月8日	8月31日	9月22日

\*「蒼月」は2016年3月植え付け

\*、「幸水」、「豊水」は2008年以前に植え付けた成木

表3 「蒼月」の果実特性(農研機構 果樹茶業研究部門 2018-2021年)

品種	果実重 (g)	果肉硬度 (lbs)	糖度 (Brix)	pH	みつ症 の発生	芯腐れ の発生
蒼月	367	4.8	12.4	5.1	無～微	無
幸水	366	5.6	12.4	5.2	無	無

\*無袋栽培

\*園芸学会令和4年度春季大会要旨より

表4 「蒼月」の果実特性(山口県農林総合技術センター 2021年)

品種	果実重 (g)	糖度 (Brix)	pH	みつ症 の発生	芯腐れ の発生
蒼月	470	12.4	5.2	無	無
幸水	321	13.0	5.1	無	無
豊水	579	13.0	4.6	無	無

\*表2と同じ樹を供試、有袋栽培

\*2020年以前のデータは農研機構に帰属しているため非公開、2022年は未調査



図1 「蒼月」の果実写真

\*農研機構提供